

子どもの読書活動を支える 「継承できる設計」

岡山市立京山中学校

本校の概要

創立51周年目

生徒数：810名 学級数：29学級

岡山の「文教地区」に位置する公立校



【年間貸出冊数 [1人平均]】

全国・中学生 : 9冊

本校 (R4~R6平均) : 29冊

* R2学校図書館の現状に関する調査 [文部科学省]

▶ 約 **3倍**

仕組みが
支える

継承できる設計：4つの柱

①

朝読書



授業実践



委員会
活動



展示
(掲示)

「組織」として動き続けるための構造

柱1 「朝読書」

- 毎朝10分：全校一斉・ただ読む
- 評価しない：書かない・競わない
- 月1ローテ：学級文庫・委員会管理



日常に「本」を組み込む
読書へのハードルを下げる



柱2 「授業実践」

教科担当の役割

- 単元のねらいと評価の設計
- 図書館を学習の場へ

学校司書・司書教諭の役割

- 適切な資料選び・環境整備
- 授業活用の具体的な提案

「役割分担」の明確化が 継続の鍵

柱2 「授業実践」



柱3 「委員会活動」



生徒を「つくる側」へ

- 文化発表会：しおり制作 等
(200人以上参加)



柱3 「委員会活動」



生徒を「つくる側」へ

- 文化発表会：しおり制作 等
(200人以上参加)
- 読書週間：福袋企画
スタンプラリー 等



生徒が活躍すると
学校の空気が変わる

柱3 「委員会活動」



柱4 「展示（掲示）」

- 本との出会い
「展示の形」を共有
- 図書館への導線（教科等の連携）



「本との偶然の出会い」を
意図してつくる



柱4 「展示（掲示）」



「仕組み」を残せば 続く

一歩を踏み出せば 取組が動き続ける

まずは1単元から

まずは1企画から